

インドネシア - 1件

## 1. エネルギー鉱物資源省、8つの地熱地帯での評価活動を準備

2020年10月19日

インドネシア共和国エネルギー鉱物資源省

記者会見 番号:305.Pers / 04 / SJI / 2020 日付:2020年10月16日

エネルギー鉱物資源省(ESDM)は、8つの地熱分野で評価活動の準備している。エネルギー鉱物資源研究開発庁(Litbang)ダダン・クスディアナ(Dadan Kusdiana)長官は、地質庁からのデータに基づき、西ジャワ州スカブミのチソロック(Cisolok)フィールドの一部、チカカック1(Cikakak1)およびチカカック2(Cikakak2)フィールドが評価活動の初期段階になると発表した。

ダダン長官は、評価を実施するにあたり、データ不足、必要な機器やソフトウェアの入手、地熱地帯の場所変更、COVID-19の影響、資金調達の課題が挙げられると述べた。特に人材においては、BLU 電力技術・再生可能エネルギー・省エネルギー研究開発センター(BLU Research and Development Center for Electricity Technology and New and Renewable Energy and Energy Conservation (P3TKEBTKE))に有能な専門家を追加してくれることを提案した。

また、これらの課題を克服するために、再生可能エネルギー・省エネルギー総局長は、地質庁、再生可能エネルギー・省エネルギー総局、エネルギー鉱物資源省エキスパートスタッフからなるチームを編成するとした。

現在、BLU P3TKEBTKE チームは、提案された調査計画を詳細なデータ(地質学的、地球化学的、地球物理学的調査)から8ヶ所の概念モデルとしてピアレビューを実施しているところである。それら各地熱地帯でのピアレビュー結果から、探鉱井の決定を行う。

P3TKEBTKE の責任者であるクリスナワン・アンディヤ(Chrisnawan Anditya)氏は、BLU P3TKEBTE チームは、アクセス道路の存在、水源の場所、表面の傾斜など、さらに注意が必要な非技術的な側面についても調査を行っていると説明した。

一方、LEMIGAS の研究者であるパンチャ・ワユディ(Panca Wahyudi)氏は、地質庁は既に以前の調査データを持っているが、地熱貯留層は石油やガスとは異なるため、これらのデータを確実に再評価する必要があると説明した。例えば、掘削ポイントを決定する精度は、10メートル以上シフトすることなく、非常に正確でなければならないとした。

地熱フィールド評価活動には、チソロック(Cisolok)フィールドの他に以下7ヶ所が含まれる。

①ジャイロロ(Jailolo) (南ハルマヘラ、北マルク州)

- ②ビトゥアン(Bittuang) (タナトラジャ、南スラウェシ州)
- ③ナゲ(Nage) (ナゲ、東ヌサテンガラ州)
- ④チレマイ(Ciremai) (クニンガン、西ジャワ州)
- ⑤マラナ(Marana) (ドンガラ、中央スラウェシ州)
- ⑥グヌン・エンドウト(Gunung Endut) (レバック、バンテン州)
- ⑦スンバルン(Sembalun) (東ロンボック、西ヌサテンガラ州)

(出典:10月19日付新再生可能エネルギー・省エネルギー総局(EBTKE)ホームページ)